
新・事務局長に就任して

海老原史樹文

名古屋大学大学院生命農学研究科

日本時間生物学会は、生物リズム研究会と臨床時間生物学会が併合して、1994年に発足しました。発足以来今年で17年の年月が経ちましたが、発足当初には考えられない程に時間生物学会は充実・発展してきました。この間、千葉喜彦、高橋清久、本間研一理事長の下、中島秀明、近藤孝男、柴田重信各事務局長の献身的な努力があり学会の発展につながったことは間違いありません。この度、近藤孝男新理事長のご指名により、事務局長の大役を引き受けることになり、その責任の重さを痛感しているところです。発足当初から比べますと、事務局が扱う事務内容は格段に増えてきましたが、過去6年間の長期にわたり安定した学会運営を続けてこられた、前任の柴田事務局長と佐藤明子事務局員の貢献

に改めて敬意を表したいと思います。

時間生物学は周知の通り、様々な分野の研究者が参加する学際的学問で、発展の著しい学問です。どの分野でもいえることですが、発展を支えるのは若手の研究者であり、彼・彼女らがのびのびと研究できる条件を整えることが重要です。時間生物学会では、昨年若手研究者からの提案により「生物リズム夏の学校」が開催されました。今年度も同様に開催されるように準備が進んでいると聞いています。事務局としては、若手学会員からのこうした提案を積極的に受け入れたいと思います。時間生物学会をさらに発展させるために、新しい企画など積極的な提案を期待しています。